

「将来は大学で働く研究者になりたい」と私自身が考えるきっかけとなった本です。

不純な動機で読み始めました。私が大学生のときに履修していた教養科目のドイツ語で、本書の原著の一部がテキストとして使われていました。宿題でそれを和訳しなければならず、翻訳版が出版されていることを知った私は、自分で和訳することなく翻訳版をそのまま写そうと思い購入しました。

しかし読んでみて、その世界に引き込まれました。

本書は、量子力学の創成に大きな役割を果たした物理学者ハイゼンベルクの自伝です。副題は「私の生涯の偉大な出会いと対話」となっており、様々な人々といろんな場面でなされた対話が綴られています。ボーア、パウリ、アインシュタインなど、量子力学の黎明期に活躍した

シリーズ 私の1冊の本

眞鍋 敬 教授(薬学部)
紹介図書

『部分と全体：
私の生涯の偉大な出会いと対話』

著者名: W. K. ハイゼンベルク 著 山崎和夫 訳

- 出版社: みすず書房
- ISBN: 4-622-04971-6
- 図書館所蔵: 閲覧室1階
- 請求記号: 289.3/H51



物理学の巨人たちが登場します。対話の内容は様々です。量子力学の話題はもちろんのこと、政治や宗教・音楽などについても哲学的対話を繰り返されます。このような知的創造の場に立ち会うことができればどんなにエキサイティングで楽しいだろうと、大学生の私は将来に思いを馳せました。

科学とは哲学だ。大学とは思想を創る場所だ。いま本書を読み返してあらためて感じます。

本学教員からの寄贈著書

■ 富沢 寿勇 先生(国際関係学部)
『文化変容の諸相: 富沢ゼミ論集』
2011・2012 (380.4/Sh94)

■ 渡辺 達夫 先生(食品栄養科学部)
『スパイスなんでも小事典』
日本香料研究会 編
講談社 (617.6/N77)

『抗肥満食品の開発と応用』大澤俊彦 監修
シーエムシー出版 (588/Ko27)

■ 奈倉 京子 先生(国際関係学部)
『帰国華僑：
華南移民の帰還体験と文化的適応』
風響社 (344.522/N27)

■ 森山 優 先生(国際関係学部)
『日本はなぜ開戦に踏み切ったか：
「両論併記」と「非決定」』
新潮社 (319.1/Mo73)

■ 平山 洋 先生(国際関係学部)
『アジア独立論者福沢諭吉：
脱亞論・朝鮮滅亡論等王論をめぐって』
ミネルヴァ書房 (289.1/F 85)

■ 高瑞 紅 先生(経営情報学部)
『中国企業の組織学習：
国際提携を通じたパラダイム転換』
中央経済社 (335.222/K o11)